

令和7年度 大館市立花岡小学校 学校評価書（ 前期 ・ 年度 ）

A 学校教育目標

自立した子どもを育てる	
めざす児童像	チャレンジングな子 心身共に健やかな子 人を大切にする子 学びを楽しみ、広げ、深める子 保護者・地域との連携

B 本年度の重点目標

◎ 課題対応能力の育成

C 学校経営の特徴

◇課題対応能力を育成する学校行事、児童会活動(チャレンジ活動) ◇明るく楽しい学級づくり ◇チャレンジ授業とベーシック授業 ◇開かれた学校づくり



【民生児童委員・孫守隊「感謝の会」で交流したボッチャ】



【全校チャレンジ「花岡ピカキラ鳥潟会館ツアー！」集合写真】



【花岡公民館と合同「もちつき会」】



【あすチャレジュニアアカデミー】

D 評価

アンケート回答者 保護者22名、 児童4、5、6年生16名、 教職員8名

自己評価A と外部評価 の評価区分	きわめて良好	自己評価B の評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100％以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99％達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79％達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59％達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39％以下の達成

I チャレンジな子どもの育成

挑戦意欲をもち、連携する力と創造性を発揮しながら主体的に活動する子どもを育てている。		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
	前期	良好	良好	「チャレンジする」という意識が児童一人一人に浸透しており、花岡小の大きな特徴として定着している。地域素材を意図的に活用できており、もっと高く評価してよい取組といえる。集団としての取組は素晴らしいが、児童個人がどうチャレンジしてどう変容したか、個に返していっそう力を付けられるようにしてほしい。
	年度	良好	きわめて良好	花岡小に関わる全ての人（児童・教職員・地域住民など）が、「チャレンジ」という合言葉を意識し、一体となって取組を継続していることを高く評価したい。アンケート結果やヒヤリングから、児童の内面的な成長や「助け合い、支え合いながらチャレンジする」姿を感じ取ることができた。現行の学習指導要領で掲げる「非認知能力」をここまで高めた取組を、ぜひ伝統としてつなげていってほしい。

自己
校評
の価
改の
善概
策要
と

【前期（→年度）】

6年生が企画しているチャレンジ活動の実現を目指し、全校児童が協力して取り組んでいる。地域資源である鳥潟会館が国の名勝に指定されたというタイミングを生かし、「花岡のよさを広く伝えたい」というねらいを共有して活動していくことで、児童自身が改めて鳥潟会館のもつ歴史や魅力に気付くことができている。学校外の人と関わった際に積極的に自己発揮できないという本校児童の実態があるため、この活動をよい機会の一つとして捉え、児童の自信につなげられるように支援をしている。そうした中で、6年生のリーダーとしての自覚や課題解決の過程での成長が見られ、それが他学年にもよい影響を及ぼしている。例えば1・2年生の七夕交流会、3年生のアルミ缶活動、4年生の大森土木さんとのクリーンアップ活動、4・5年生の自然教室など、各学年の発達の段階に応じながら、それぞれがリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、活動を進めることができた。今後も一歩踏み出す勇氣と相手意識をもって、主体的に活動できるよう、日々の言葉掛けを工夫したり、行事のミーティングや事前・事後指導を大切にしたりしながら、日常化を図っていききたい。

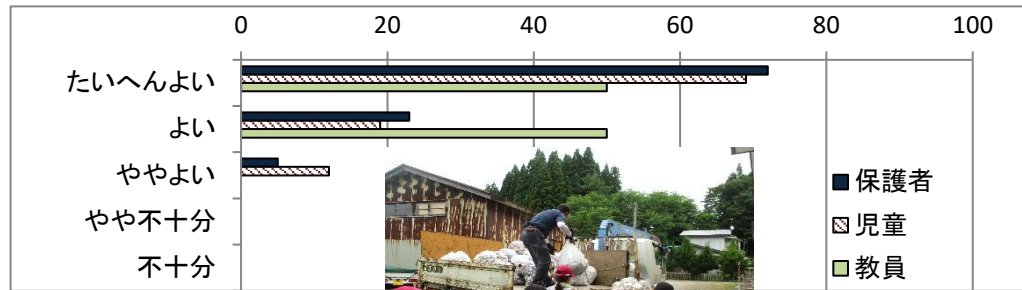
【年度（→次年度）】

「花岡ピカキラ鳥潟会館ツアー！」において児童が満足感・幸福感を得られたことが活動後のアンケートからも見て取れた。また、6年生の主体的な取組やがんばりが、5年生の「来年度のリーダー」という自覚を促している。ここで培った力がその後の委員会等の活動で生かされており、高学年の姿が低学年の憧れを生み、各学年の主体的な活動につながっている。このように6年生が企画し、全校で取り組んだことが、チャレンジすることのよさ、連携し、創造的に活動することの楽しさの実感に結び付いている。我々職員にとっても貴重な学びとなった今年度の取組を今後の指導に反映させていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
I チャレンジ精神の高揚	(1) チャレンジ活動（学年・全校）の推進と充実	課題対応能力育成のための各学年及び全校の実践	4	4
	(2) 創造性・連携する力の向上	創造性・連帯感を向上させる各種ミーティング 学級の係・委員会活動等の児童会活動 SDGsへの取組		

【Iに関するデータ】

○いろいろな活動に、助け合い、支え合いながらチャレンジしているか。
（平均値 保護者4.68 児童4.56 教員4.50）



【3年 アルミ缶回収活動】

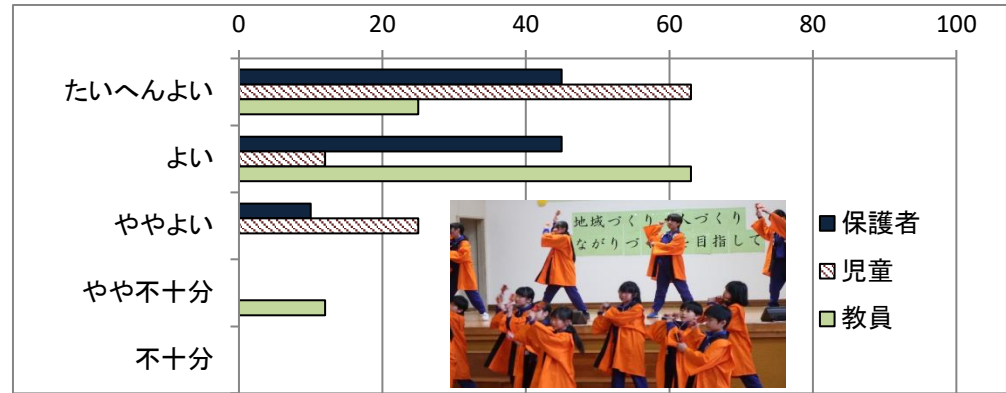


【「花岡ピカキラ鳥潟会館 ツアー！」各学年ごとに、担当の場所を紹介】



【「花岡ピカキラ鳥潟会館 ツアー！」茶道クラブの 呈茶】

○いろいろな行事で、充実感を味わい、自分のよさを発揮できているか。
（平均値 保護者4.36 児童4.38 教員4.00）



【花岡公民館「産業文化祭」での 「よさこいソーラン・マツケンサンバⅡの披露】



【5年生 児童総会で来年度の 全校チャレンジについて提案】



【学習発表会 1・2年 劇「金のリンゴ」】

Ⅱ 心身共に健やかな子どもの育成

健康な心と体をつくろうとするとともに、自他の心や人間関係等を大切に育んでいる。	自己評価A		学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
	前期	良好	良好	外部人材の活用を積極的に行っていることで、児童の意識が高まっている。今後も願いたい。北陽中学区での取組の結果、児童の健康の改善が見られるのはよかった。（評価書に記載はないが）メディアコントロールについては、学校と保護者とで連携して、今後も啓発を願いたい。
	年度	良好	良好	児童総会での子どもたちの振る舞い、ヒヤリングではきはきとした受け答え、下学年の児童を優しく導く高学年の姿など、随所に「花岡っ子」のよさが発揮されていた。北陽中学校区5校の合同プロジェクトの「睡眠」に着目した取組は、今後の児童の健やかな成長に資することが期待される。専門家の意見も聞きながら、元気な児童を育ててほしい。

自己校評の 改の善 概要と	【前期（→年度）】 生活習慣向上に向けて、学校内科医による「『親子学習会』の講話」、学校歯科医による「歯磨き指導」や学校栄養教諭による「食育指導」など外部講師を活用した指導を行い、児童への意識付けを行った。また、養護教諭による「手洗い教室」「プライベートゾーンの学習」など生活習慣について考える機会を設けた。児童委員会では「歯磨き指導」「歯と口の標語募集」「衛生王」を企画して行い、児童が主体的に取り組む活動も行われた。 さらに、児童委員会では、体力づくりのため、運動会の前後に「マラソントイム」を企画した。マラソンカードを取り入れたことにより目標までの道のりが可視化され意欲に繋がった。「ドッジボール大会」も7月に企画していたが暑さのため秋に延期となった。6月には体力テストを縦割り班で実施した。また、全校でシャトルランに取り組む時間を設け、助け合いながら活動に取り組むことができた。今後も、体力向上に目を向け、なわとび活動に力を入れていきたい。「なわとびカード」を利用し、自分の達成度を可視化することで意欲的に体力向上に取り組ませたい。
	【年度（→次年度）】 外部講師を活用し、学校栄養教諭による「食の指導」や学校薬剤師による「薬物乱用防止教室」を行い、児童の健康への意識を高めた。学校保健委員会や学校歯科医の小笠原先生による「生活習慣と歯の健康」についての研修会を開くことで、家庭と連携して、児童の健康を目指している。北陽中学校区では、昨年度のメディアコントロール週間の結果から、「睡眠」についての対策を講じるなど、一緒にメディアコントロールに取り組んだ。児童委員会では「衛生王」や手洗い・マスク・換気などの昼の放送を主体的に行っている。体力テストでは20mシャトルランの記録が昨年度より落ちていた、そこで、体力向上を目指し、なわとびに取り組んだ。なわとびカードを使うことで自分のがんばりが可視化され、楽しみながら体力の向上を図ることができた。また、50m走の結果が全国平均を下回っていたため、児童会主体の「こおりおに大会」を継続するなどして、走る力を伸ばしていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
2 心身の健康づくり	(3) 生活習慣向上に向けた実践	生活習慣指導、食育指導、保健・健康教育等	4	4
	(4) 継続的な体力づくりの取組と体力の向上	体力テスト・なわとび運動等多様な遊びの奨励と環境整備		

【1に関するデータ】				
○生活習慣向上に向けた取組を行っているか。 (平均値 保護者4.32 児童4.13 教員4.50)				
○継続的な体力づくりに努めているか。 (平均値 保護者4.18 児童4.56 教員4.13)				
【学校医の先生方をお迎えして行った学校保健委員会】				
【スポーツ・健康委員会主催のなわとび運動】				
【学校薬剤師士による6年「薬物乱用防止教室」】				
【スポーツ・健康委員会主催の「全校こおりおに」】				
【2学期末PTAに行われた学校歯科医 小笠原正卓氏による研修会「生活習慣と歯の健康」】				
【助産院 イスキア 菅原光子氏による5年「いのち」についての学習】				

Ⅲ人を大切に

する子どもの育成

規範意識をもって、自他の心や人間関係等を大切にする人間尊重の精神を育てている。		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
	前期	良好	良好	子どもたちの仲のよさが、授業参観や児童のヒアリングから分かり、うれしかった。評価書の写真からも、丁寧な取組からの積み重ね効果がみられる。児童の評価に比して、教職員の評価が辛めなのは、もっとできるはずだとの思いと捉えたい。後期の取組に期待したい。
	年度	良好	良好	規範意識や相手意識といった「コミュニケーションの基本」が、非常に高いレベルで備わっている。ヒヤリングから、教職員と児童とが同じ方向を向いて、同じ意識で活動に取り組んでいることが分かった。下級生は上級生を信頼し、上級生は下級生を優しく導く、少人数の強みを生かした温かい人間関係づくりを、今後も大事にしてほしい。

自己評価の概要と改善策

【前期（→年度）】

6年生を中心としたチャレンジ活動の成功を目指し、全校児童、全職員が同じ方向を向いて計画・準備に取り組んだ。児童が何度も話し合いを重ねる中で成長していく様子が見られた。3年生の「アルミ缶回収活動」や4・5年生の「自然教室」など、各学年に応じた校外学習や体験活動も充実していた。「成功させたい」という意欲が高まっている一方、「主体的に考えること」や「相手意識をもって活動に取り組むこと」など、課題も見付けることができた。矢立小との交流授業では、自分たちも交流を楽しみながら、司会を務めたり、言葉で説明したりして、矢立小の子どもたちを楽しませようとがんばっていた。各学級における各行事の事前指導により、来校者への態度や礼儀を身に付けてきているところである。よさこいソーランの練習や縦割り班活動では、高学年が低学年を気遣う様子も見られ、良好な人間関係がうかがえた。課題の克服や、良さを生かすためにも、行事やイベントの時だけでなく、日々の学級経営の中で意識しながらさらに繰り返し指導を継続していきたい。

【年度（→次年度）】

4年生による「マツケンサンバ練習会」や、「感謝の会」での3年生によるボッチャのルール説明などの話し合いでは、自分たちができることで地域を明るくするために、子ども達が自分の意見をもって臨んでいた。大館市子どもサミットでは、自分たちの活動についての宣伝方法についてのアドバイスを受けた。それを基に6年生が話し合ったことで、活動を広げることができた。運営委員会による「あいさつ運動」や、運動・健康委員会によるメディアコントロールについての発表などを企画・運営することができた。3学期には学級・学年ごとの「あいさつ運動」を行い、児童同士の挨拶も活発になることを目指している。チャレンジ活動や学習発表会などの学校行事はもちろんのこと、日々の学級での生活の中で一人一人が活躍する場面が設定されており、今後もそのような学級活動を大切にしていきたいところである。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
3 人間尊重の精神	（5）集団の一員としての自覚ある言動	縦割り班活動・委員会活動・学校行事等での活動	4	4
	（6）明るさ・活力・自他を大切にする学級づくり	学級指導・学級活動の充実		

【2に関するデータ】

○集団の一員として自覚ある言動をしているか。
（平均値 保護者4.36 児童4.69 教員4.13）

たいへんよい

よい

ややよい

やや不十分

不十分

0

20

40

60

80

■保護者

▨児童

■教員

○明るく活力ある学級づくりが行われているか。
（平均値 保護者4.32 児童4.56 教員4.00）

たいへんよい

よい

ややよい

やや不十分

不十分

0

20

40

60

80

100

■保護者

▨児童

■教員

【4年生から全校児童へ「マツケンサンバⅡ」の伝授】

【児童総会】

【運営委員による あいさつ運動】

【スポーツ・健康委員によるoneoneカードへの取り組み方についての発表】

【民生児童委員・孫守隊「感謝の会」でボッチャについて説明し、ゲームを進めた3年生】

【子どもサミットで自校の取組について説明】

Ⅳ 学びを楽しみ、広げ深める子どもの育成

		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
内発的動機付けに支えられた学びを楽しむとともに、互いの考えを共有したり多角的に考えたりするなど、学びを深める指導を行っている。	前期	良好	良好	複式学級の指導法が確立しつつあり、効果的な学習の様子が見られてよかった。花岡小は、学びのハード面（複式の指導法、地域素材や人材、図書館などの社会教育施設）はよいものが揃っている。それを積極的に生かし、学ぶ意義を児童に落としこんで、自発的に学ぶ児童を育ててほしい。
	年度	良好	良好	少人数や複式での指導といったことを強みとして捉え、児童一人一人の学びを丁寧に見取っている。ノート展や図書館まつりなど、児童の学ぶ意欲を喚起する仕掛けが見られ、教職員が様々な工夫しているのがよい。学び合いが充実してきたことは、アンケート結果から読み取れる。それが学力とどう結び付いているのか分析して、さらに力を高めることができるよう期待している。
自己校の評価改善の概要と	【前期（→年度）】 4月に「学習の約束」「学び方」について職員と児童とで共通理解を図り、定着に向けて共に頑張ってきた。授業についても研究主任による提示授業を皮切りに授業研究会を複数回実施し、職員同士で授業力向上に努めてきた。読書活動では、花矢図書館とミラクルバナナさんに読み聞かせを実施していただいたり、花矢図書館から定期的に本を貸し出していただいたりして、本と触れあう機会を増やすように努めてきた。これらの取組について、児童が高い評価を出したことは大変嬉しく、職員にとって今後の大きな励みとなった。これからも児童と共に学び、共に成長できるように取り組んでいきたい。			
	【年度（→次年度）】 節目節目で「学習の約束」「学び方」について職員と児童とで共通理解を図り、共に頑張ってきた成果がアンケートからも読み取れる。視察訪問の受け入れや授業研究会を力を高める機会と前向きに捉え、チャレンジ授業の改善に各担当が果敢にチャレンジをした。外部から頂戴した意見を励みにさらに高みを目指し、児童と共に頑張った成果として、「学び合いの充実」に関する評価が著しく上昇した。読書活動では、昼の読書タイムやボランティア団体による定期的な読み聞かせ、週末読書といった日々の活動の積み上げがよい成果につながった。何よりもアンケートのどの項目でも「たいへんよい」と回答した児童が多いことは素晴らしいことである。次年度も児童が自信をもって自ら学びを深められるように、日々の活動の積み上げをしっかりと支援していきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 基礎・基本の定着	（7）基本的な学習習慣の定着	「学習の約束」「学び方」の徹底	4	4
	（8）基礎・基本の徹底と学習内容の定着	基本を徹底する授業（ベーシック授業）		
5 学びの多面化・深化	（9）多様な学びの保障	主体的に学び合う授業（チャレンジ授業）	4	4
	（10）読書活動の充実	図書館まつり、各種読み聞かせ、読書運動等		

【4に関するデータ】

○基本的な学習習慣が定着しているか。
（平均値 保護者3.95 児童4.88 教員4.14）

○計算、漢字、読み書きなど、学習の基本が身に付いている
（平均値 保護者3.82 児童4.38 教員4.00）

【「ノート展」全校児童で
お互いのノートを見合う】

【市教研 6年体育
動画で技の様子を見合いながらの
アドバイス】

【指定訪問 3・4年図工
作品を見ながらの学び合い】

【図書館まつり】

【5に関するデータ】

○学び合いの充実が図られているか。
（平均値 保護者4.50 児童4.88 教員4.29）

○読書活動が推進されているか。
（平均値 保護者4.14 児童4.50 教員4.63）

V 保護者・地域との連携

学校の取組がわかりやすく 保護者や地域に伝えられ、 地域の教育力が有効に 活用されている。		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
	前期	良好	良好	地域連携の緊密さは、花岡小の強み。児童からも「地域の人に感謝の気持ちを伝えたい」などの言葉が自然に出るのが素晴らしい。地域住民、企業、保護者、学校が連携して、花岡小の児童を健やかに育てられるよう、今後も取り組んでもらいたい。
	年度	良好	きわめて良好	「花岡ピカキラ鳥潟会館ツアー」の取組は本当に素晴らしかった。児童のみならず、地域住民の花岡地区に対する肯定感を高めることに成功したのではないかと。ふるさとキャリア教育作品コンクール教育長賞や、大北PTA連合会表彰など、外部からも高く評価されていることは特筆に値する。地域と関わり合いながら、地元花岡への愛着をさらに高められるよう期待したい。

自己
校評
の
価
改
の
概
要
と
策

【前期（→年度）】

ブログは、各活動後にその都度写真を添付の上送信し、子どもたちの様子を知らせている。保護者アンケートには「子どもの様子が伝わってきており、うれしい」という記述があった。学校報や学級だよりも、地域や保護者に子どもの様子や予定が伝わる内容を工夫していきたい。今年度も、地元企業との交流や見学、クラブ活動、花岡版子どもハローワーク等、子どもたちの活動にお力添えをいただき、地域の皆様には感謝したい。今年度は、市のふるさとキャリア教育推進の基盤として、「心震える体験」「カッコいい大人との出会い」が挙げられている。その意味でも、秋田工営（株）との交流で、地元のヒーロー「コウライザー」の講話から地域を支える思いを聞いたり、企業の方と交流しながら電気工作キットの製作やドローンの操縦を体験できた体験は有意義であった。児童数の減少により、釈迦内保育園や向陽こども園との交流、花岡版子どもハローワークでは、持続可能な進め方を模索しながら行っている。今後も、地域の実情など考慮しながら、地域と関わる活動を大事にしていきたい。

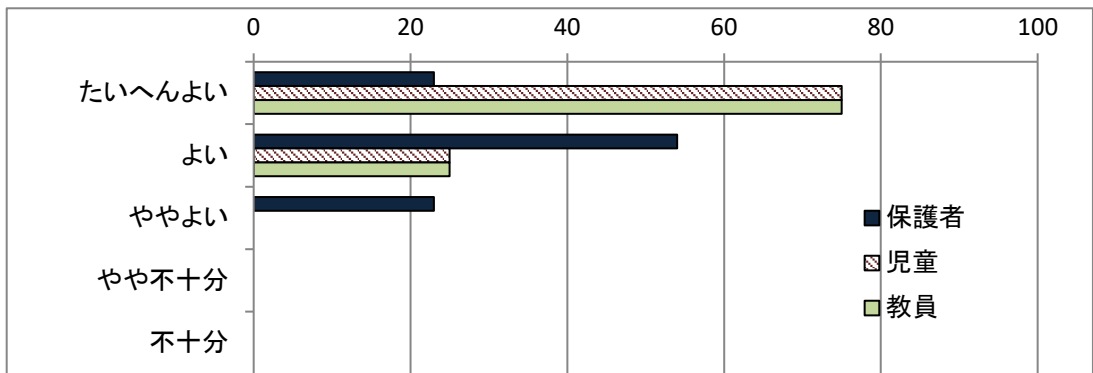
【年度（→次年度）】

「花岡ピカキラ鳥潟会館ツアー！」の予行では、学校運営協議会委員や民生児童委員、孫守隊の方々からアドバイスをいただき、本番では生き生きと活動することができ、成功裏に終わることができた。また、活動についてブログやHP、ラジオ番組でPRすることもできた。ふるさとキャリア教育の取組で教育長賞を受賞するなど、子どもたちが花岡の知名度を高めたといえる。花岡地区産業文化祭や公民館と合同で行ったもちつき会、民生児童委員や孫守隊との感謝の会では、地域の方々に元気を届け、その姿を地域の方々に認めていただくことで子どもたちの地域愛がさらに深まった。地域の方々を先生として行っているクラブ活動やミシンボランティアは、子どもたちも楽しみにしている時間であり、生き生きと活動し、丁寧な指導により技能も身に付けている。これからも、地域のつながりを大事にしながら、花岡のよさを実感できるような活動を続けていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 情報の受発信	(11)各種たより等の充実と学校開放	学校報・学年だより等での発信 HPの定期的な更新 学校開放や保護者アンケートでの受信	4	4
7 地域との連携	(12)地域に対する愛着心や誇りを高める実践	学習・クラブでの人材活用 花岡ピカキラ鳥潟会館ツアー！ クリーンアップ（ハッピーアップ大作戦！） 地域探検、職場体験、花小子どもハローワーク等 「保小中」間での連携	4	4

【6に関するデータ】

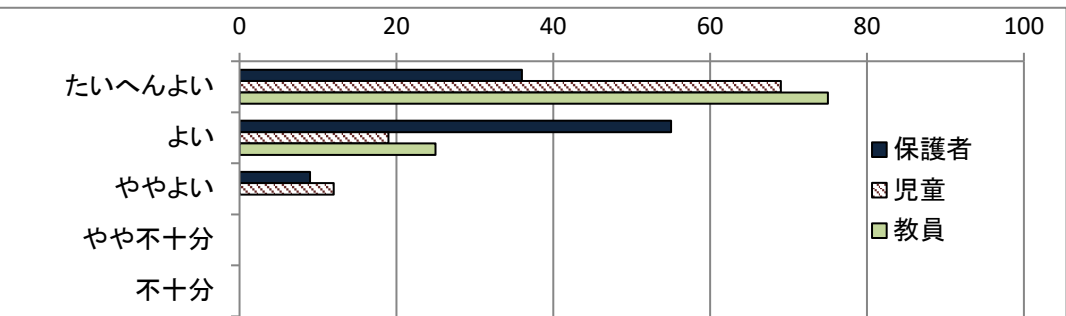
○学校報、学年だより、各種のおたよりは充実しているか。
（平均値 保護者4.00 児童4.75 教員4.75）



【家庭科ボランティアによる授業】

【7に関するデータ】

○地域人材の活用、愛着心や誇りを高める実践がなされているか。
（平均値 保護者4.27 児童4.56 教員4.75）



【地域の方を先生に クラブ活動】



【民生児童委員 孫守隊と「感謝の会」】



【ココロの授業】